

講義名	基礎技能B(文章理解)			授業形態	
担当教員	富岡 敦基	開講期・曜日・時限	後期 水曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	BSS131

主題と概要

【目的】
基礎技能Bは、公務員を目指す学生を対象とする「公務員試験対策プログラム」に位置づけられる公務員試験対策科目である。
1年生対象の「基礎技能B(文章理解)」では、公務員試験で必要となる「基礎能力」に関し、幅広く「講義」と「演習」を盛り込み、教養科目の核となる『文章理解』を解く能力の底上げを図る。授業内では初級と中級として最終回での理解度を平均点を20%アップすることを目標とする。公務員試験合格には、当該授業を履修するだけでなく、自学自習が前提であることは言うまでもない。
なお、本授業を履修するには事前ガイダンスへの参加とエントリーシートの提出が求められる(「履修にあたっての注意・助言他」を参照)。

【内容】
「文章理解」を学び、社会人として必要な基礎的な文章読解・文章構成力を身につけてもらう。
また、「公務員の職種や試験制度」今後の学習方法についても学ぶ。
試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること。
小テスト(5問)を第3回、6回、9回、12回、15回に実施する。

【意義】
講師との対話を通じて進められる本授業の意義は、受講生が、本学がディプロマポリシーで掲げる「論理的思考力」「情報収集力」「情報分析力」を著実に身につけることができることにある。
また、「公務員」という明確の目標に向けて、コツコツと宿題をこなしていくことによって、「ネアカのひびひ」へこたえず、の精神を養うことができることにも大きな意義がある。

到達目標

- ・公務員試験の一般知識分野を学ぶ上で重要となる「基礎的概念」の理解に必修となる「総合力」を養うことができるようになる。
- ・公務員試験・教養科目の核となる『教理的推理』『判断推理』の基礎を固めることができる。
- ・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。

なお、以上の目標に到達するため、本授業は講師と受講生のコミュニケーションを重視する。そのため、教室における対面授業で実施する。

提出課題

- ・毎授業時に練習問題を出す。
- ・公務員試験勉強には日ごろの自習が求められる。宿題を通じて、自分のペースに合わせた学習習慣を身につけてもらいたい。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

練習問題は授業中に講評・解説を行う。
第3回、6回、9回、12回、15回に実施する小テストに関しては各個人の点数、クラスの平均点をFシートで返却する。

評価の基準

小テスト(5回×5問=25問) [50%]と受講態度(課題の提出[15回]等) [50%]の割合で評価する。

履修にあたっての注意・助言他

本授業を履修するには、ガイダンスへの参加とエントリーシートの提出が必要です。

【ガイダンス】
1年前期(5-6月)に目的、内容を紹介する説明会を実施するので、履修希望者は必ず参加して下さい。

【エントリーシートの事前提出】
公務員対策は4年間にわたる長丁場の取り組みとなり、強い意志が必要となります。そこで履修希望者は、エントリーシートを提出して頂き、それが審査されて履修の可否が決定されます。エントリーシートの詳細はガイダンスで説明します。なお、本授業は50人を定員としています。

【履修に際して】
必ず4限の教理的処理 と5限の文章理解 をセットで履修をしてください。

【授業に際しての注意】
試験期間に試験は行わず、成績は授業期間内で全て評価される。毎回出席すること。
受講態度が悪い場合には、減点する。
また、最初の授業時に学習する科目のテストを行い、その時点でどれくらい問題が解けるかや苦手範囲を確認し、15回の授業を通して解けるようになる。

教科書

.公務員試験 [高卒程度・社会人]初級スーパー過去問ゼミ 文章理解・資料解釈.	資格試験研究会 編	実務教育出版	1540	9784788972674
---	-----------	--------	------	---------------

参考図書

.なし.				
------	--	--	--	--

その他

必要に応じて資料を適宜配布する。

授業計画

1. 公務員ガイダンス・現代文：要旨把握
2. 現代文：要旨把握
3. 現代文：内容把握
4. 現代文：内容把握
5. 現代文：空欄補充
6. 現代文：空欄補充
7. 現代文：文章順序
8. 現代文：文章順序
9. 英文：要旨把握
10. 英文：要旨把握
11. 英文：内容把握
12. 英文：内容把握
13. 空欄補充
14. 文章順序
15. 古文

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習：それぞれの回の実施内容(全体把握)を予習すること(2時間程度)。
復習：講義内で実施した範囲の問題演習を繰り返し、3回以上は解くこと(2時間程度)。
公務員採用試験対策においては、問題演習を繰り返し解くことが重要である。
自学自習をすることで、授業で学んだ知識を定着させましょう。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本授業の目標は、本学のディプロマポリシー(5項目)と以下の点で関連する。
・『文章理解』の中でも特に現代文・英文・古文の基礎を固めることができるようになる。
・「知識を応用に変換することができる、論理的思考力を持った人材」の育成
・毎週の宿題と講師のアドバイスを通じて、自学自習の習慣を身につけることができるようになる。
・「自主・自立の精神を持った人材」の育成

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

理解度確認表・キャンパスクロスを活用し、不明点や確認事項を学生と講師間で共有する。

実務経験の有無及び活用

備考